



津幡南中学校長 田中 宏志
2 年学年主任 村上 直哉

将来の自分を考える時間、成長を感じた姿

～ 令和 6 年度津幡町立志式 ～



1 月 31 日（金）に津幡町文化会館シグナスにて、令和 6 年度津幡町立志式が行われました。この式は、まさに人生で一度しか経験できない「一つの節目」です。次にこの仲間が集うのは成人式でしょう。約 6 年後の成人式での制服姿から振り袖や正装になったみんなの姿を想像すると、徐々に大人になっていくのだなと感慨深いものがありました。と同時に、ここに集う三中学校の若人たちが 344 人が、これからの津幡町を背負っていくのだなあとと思うと、その責任の重さを感じずにはいられませんでした。

私たち津幡南中学校 2 年生は、身も心も引き締まった表情で式に参列し、張り詰めた緊張感の中、立派に行動することができました。特に座っている姿勢がとても素晴らしかったと思います。また、代表生徒が活躍しました。記念品目録贈呈では荻野優月さんが、会場に響き渡る立派な返事ときびきびとした態度で目録を受け取り、意見発表では早川透生さん、倉知ななみさんが原稿をすべて暗記し、みんなの前で堂々と自分の思いを立派に語ってくれました。市民憲章の唱和では山田照さんが登壇し、張りのある声で堂々と読み上げ会場にいる 2 年生を立派にリードしてくれました。記念講演会では、「好きなこと、得意なことを誰かのために」と題して、津幡町出身のメゾソプラノ歌手である小泉詠子さんが伸びのある歌声とトークで私たちに素敵な時間を演出してくださいました。普段なかなか触れることのできない歌声をお聞きし、心が豊かになりました。みんなで作り上げた立志式。将来の自分を考えるよいきっかけとなりました。

目録贈呈 荻野優月さん



立志の誓い 山田 照さん



立志の主張 倉知ななみさん



立志の主張 早川透生さん



記念講演 メゾソプラノ歌手 小泉詠子さん



- ・僕はこの「立志式」を迎えたことでまた一つ成長し、大人に近づいたなと思いました。その理由の一つとして今回「立志の誓い」の代表を担当したことが大きく影響していると思います。みんなの前に立つと緊張すると思い、実際に声を出してみると熱意がわいてきてははっきりと発声できると実感し、緊張した時にも自分ならできる！と自信を持つことが大切だと知ることができました。また、小泉詠子さんの「自分の好きなことや得意なことを継続したことは、いつか他の分野でも必ず役に立つ」という言葉が心に残り、僕も将来に向けて努力していきたいと思いました。（①山田 照）
- ・小泉さんのお話から、中2の今の時期が何事も吸収しやすい時期だと聞いて、勉強も部活動も頑張りたいと思った。さらに、水泳部でのきつい経験を今に活かしていると言っていたので、今部活で学んでいることや経験していることを将来活かしていきたいと思った。小泉さんは自分の好きなことを追及し楽しんでいてかっこいいと思ったので、私も好きなことを追及し楽しめる大人になりたいと思った。しかし、その分、努力も必要だと思うから、何事にも一生懸命にやりたい。（①門前ことみ）
- ・自分はもう大人に近づいてきていることを思いながらこれから生活していきたい。今まで生きてきたのも家族の支えがあったからだと改めて「ありがとう」を伝えたい。小泉さんの「一步一步進めばいつかはゴールについている」という言葉が当たり前のことだけれども深い意味がこもっていると感じたのでこれからの人生に活かしていきたい。諦めなければ自分の夢を実現できたお手本を示してくれたので、自分もあきらめずに挑戦したい。これからの行動に責任を持ち、当たり前のことがしっかりできる大人になりたい。（②坂田航平）
- ・誰かのために頑張れる人になりたいと思いました。小泉詠子さんの話でいい評価をもらうのではなく、お客さんのために歌を届けたいという思いがあるから心に響くのだと思いました。私はまだ、誰かのために何を頑張ろうかわからないけれど、自分の好きなもの、得意なものを届けたいと思いました。努力は必ずいつかは豊かな人生につながるので、私も苦手なことでも頑張りたいと思いました。（②奥村風花）
- ・私は立志を終えて、自分も大人に近づけたと思いました。津幡町長はじめ多くの祝辞を聞いて、自分ももう親に頼らず、自分で言ったことや行動に責任を持たなくてはいけない年齢になったのだと思いました。記念講演の小泉詠子さんには、自分たちがこれからの人生、好きなこと、得意なことを活かしていくことが大切だと教わりました。苦手なことや不得意なことを極めるのもいいけれど、好きなことや得意なことをしているほうが楽しいだろうなあとと思いました。来年は受験の年になってしまうけれど、得意なこと、好きなことをやりつつ、受験の勉強にも取り組もうと思いました。（③紙谷羽葉）
- ・立志の主張の中にあった、今後いろいろな選択がある中で僕も周りの目を気にせず、自分で選んでいきたいと思った。また、立志の誓いにあったように、人に甘えず、自分の足で進んでいきたいと思った。中学2年生の今が一番いろんなことを吸収できると知った。だから、残り少ないこの時期にいろんなことをインプットやアウトプットをしていきたいと思った。今日の立志式を通して、これから大人に近づいていくという実感が持てたので良かった。（③能山翔颯）
- ・私は立志式を終えて、自分にとっては「今」は大切なものだと感じました。「今」勉強を頑張ったり、部活を頑張ったりすることは将来において役に立つことも、小泉さんのお話を聞き、学ぶことができました。また、立志式は自分の人生を見直すものだったと思いました。来年には受験が待っていて、自分の将来につながる選択が大切だと感じました。私は今、部活動や勉強、習い事などいろんなことに頑張っています。でも、自分の都合のいい理由を作りさぼってしまうことがあります。これからは自分がいい方向に行くような選択を自分で考え、行動していきたいと思います。（④齋藤詞乃）
- ・私は、今日を迎えるまで、14歳が大きな節目になることにあまり実感がなく、立志式を開く意味もよく分かっていませんでした。でも、津幡中の坂本さんの作文やソプラノ歌手の小泉さんのこれまでのことを見聞きして、この式はこれから心も体も大きくなっていく私たちの大切な一歩ということを感じました。今までのことは大人になるにつれ記憶が薄れていくけれど、今日のことはしっかりと胸に刻んで「立志の誓い」を思い出し立派な大人になりたいです。（④高野優月）
- ・今日の立志を通して大変なことでも地道に少しずつ進めていくことが大切だと学びました。私が大切にしている日々の学習目標は「毎日コツコツ」です。今日改めて、「これからも続けなくては」と思えました。また、代表生徒の主張を聴いて「自分も頑張ろう」と思うことができました。みんな将来、つきたい職業や目指している人になるために努力していることが分かり、身が引き締まりました。私は将来、父のような笑顔が絶えない人になりたいと考えています。そのために積極的に行動したり、自分や相手にとってプラスになるような明るい言葉を発言したりしていきたいと思います。そして、私のアンテナを張って自分の中の「苦手」を少しでも減らし、「得意」を極められるように頑張りたいと思います。（⑤武蔵川怜依）
- ・本日の立志を終えて、この中学2年生を迎えられるのはとても幸せなことなのだと感じ、この日を迎えさせてくれたいろいろな人たちに感謝したいと思った。坂本さん（津幡中）のお話を聞き、たくさん悩んで自分の心で決めたことは決して間違いではないと分かった。また、早川さんのお話を聞き、何をするにも思いやりが大切なのだとわかった。そしてその思いやりには、自分から声をかけてあげる思いやりもあるのだと、板坂さん（津幡中）のお話を聞いて知った。これからは誓いの言葉のように、大志に向かって努力して期待される若人となり、自分の力で一步一步前進していきたい。「小さなことを積み重ねるのが、とんでもない所へ行くただ一つの道」だから。記念講演では小泉詠子さんの貴重なお話と歌を聞かせていただいた。そして、自分の得意なことを伸ばすことも大切だと知った。一つのを一生懸命にすると、次の分野でも役立つという言葉がとても印象に残った。中学2年生の今のうちにアンテナを立てて、たくさん吸収していきたい。（⑤倉知ななみ）

